

令和4年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立千鳥小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・あらゆる観点の能力を高めるため、読書量を増やした。学校図書のみならず、新聞なども読ませ、あらゆる視点から国語科の学力向上を目指すことができた。
- ・発達段階に応じた話す・聞く活動を計画的に取り入れたため、話し合い活動を楽しむ児童が増えた。
- ・朝の「ぐんぐん国語」の学習時間を通して、言葉のきまりや漢字などの知識が定着してきた。
- ・漢字学習などは、繰り返し指導し、定着を図ってきた。

(2) 課題

- ・基礎的な学力は身に付いているが、日々の生活や他教科に生かす「活用」になると既習内容を学力として発揮できない状況が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」は、区平均を上回っている。 「知識・理解」は、全国平均を下回っている。	/	/
第5学年	全観点が目標値・区内平均を上回っている。	全観点が目標値・区内平均を上回っている。 (第4学年時)	/
第6学年	全観点が目標値・区内平均を上回っている。	「知識・技能」が目標値と全国平均を上回っている。「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」は、区・全国平均を下回っている。(第5学年時)	「読む能力」が2ポイント、その他の観点は8ポイント以上目標値を上回っている。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「言語の特徴や使い方に関する事項」、「書くこと」では、目標値を下回っている。既習事項の定着ができていないことが考えられるので、日々の漢字学習を学校と家庭学習に取り入れ、積み重ねていく必要がある。	・「読む能力」は、目標値を10ポイント以上回っている。教員や友達から聞いた内容を振り返る指導を重ねると共に、スピーチや発表の機会を授業以外の時間にも取り入れ、自分の思いや考えを伝えるようにしてきた。	・学習意欲は高く、発言やノート、読書活動に積極的である。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」については、目標値・区や全国の平均正答率が6割なのに対し、7割以上の数値となった。基礎的な知識や技能は定着していると考えられる。 ・特に「漢字を書く・読む」については、目標値・区や全国の平均正答率を上回り、漢字の力が定着していると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」については、物語文の読み取りの正答率が8割を超えているのに対して説明文の読み取りの正答率が6割を下回る結果となった。説明的な文章の事実・感想・意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて、要旨を把握する力を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的に学習に取り組む態度」については、目標値・区や全国の平均正答率を上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ノートやワークシートに教科書や板書を写す活動を通し、文字の表記に関する事項の定着を図る。 ・平仮名、片仮名、漢字の定着を目指すため、定期的な小テストを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取ったことを復唱したり、他者に伝えたりする活動を多く行い、大切なことを漏らさずに聞き取る力を高めていく。 ・学級全体での話し合い活動を多く設定し、自分の意見を分かりやすく伝える力を育てる。また、他者の意見を柔軟に取り入れる姿勢も身に付けさせ、話し合うことで、自分の考えが豊かになるという良さを味わわせる。 ・順序立てて書く力を付ける日記や短作文などの指導を宿題や授業で継続的に行い、事柄の順序を考えたり組み立てを意識したりしながら書く力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさや速さ、姿勢など、具体的に気を付けることを意識させながら音読をさせ、声を出す場を日常的に多く設定する。また、スピーチなどの活動も定期的に行い、全ての児童が一人で話す機会を増やしていく。 ・教科書や教師のモデル文を手本にし、文章を書く学習を継続して行わせる。自分の思いを表現することの楽しさを実感させ、書くことに対する苦手意識をなくしていく。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・語彙を増やすことを意識し、辞書を引くことを習慣化させていく。文章中の重要な言葉はその都度確認し、授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や段落の様子を叙述に基づいて正確に読み取り、相互の関係を考えさせる授業展開をする。また、読み取つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・本を選ぶのが苦手な児童へは、学校図書館司書と連携して選書の視点を示す。 ・読書の機会を増やすとともに

<p>内でも繰り返し使うことにより、言葉の意味を身に付け使用できるようにさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語事項の能力の定着を目指す。様々な場面で、学習した漢字は使うように指導する。漢字の宿題は日々繰り返し練習し、定着を図る。 	<p>た内容をもとに自分の思いや考えを発表したり伝え合ったりする活動を多く展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書く力の向上を目指すために、相手意識・目的意識を明確にし、書く内容をしっかりと意識させ、書くことに対する意欲をもたせる。書く活動の学習の際には教師のモデル文を提示するなど工夫し、文章に合った表現方法を身に付けさせる。 ・読解力を高めるために、登場人物の心情や場面の情景を丁寧に指導する。挿絵から分かることを考えさせたり、イメージを共有したりと、視覚的に理解できるような指導を心がける。 ・話す力の向上を目指す。全体で話をするのが苦手な児童が話しやすいように、ペア・グループでの話し合いをもとにしながら、全体での意見交流をするなど授業の中で活動を工夫する。また、意見を話す際には、理由を交えて伝える意識を高めさせる。日常的に音読やスピーチ活動に取り組み、話し方や聞き方についての力を育てる。 	<p>に、読んだ本の感想や内容を互いに交流する場を設け、「書くこと」に対し、児童が苦手意識をもたないように工夫をしていく。</p>
---	--	---

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・既習漢字の習得は漢字テストや、練習を繰り返して確実な定着を図る。単なる暗記ではなく、漢字の意味についても理解できるように、モジュールの国語の時間を効果的に使用する。 ・言葉の学習の充実のために、物語の感想や、説明文の要旨など、自分の考えを具体的に文章していく活動を増 	<ul style="list-style-type: none"> ・文の構成にかかわる事項の理解を深めるために、主語・述語・修飾語の関係について丁寧な指導を行い、確実に理解できるようにする。説明文では、指示語や接続語などの確実な読み取りを授業で扱う。物語文では、叙述の最後まで丁寧に読み取り、主人公の心情を理解させる。 ・文章を要約する力を伸ばす 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる観点の能力を高めるため、読書量を増やす。学校図書のみならず、新聞なども読ませ、国語科の学力向上を目指す。

<p>やし、書く力を高めていく。また、書く力を高めるために、語彙力を増やす必要がある。そのために、読書活動や、わからない言葉を辞書で調べることができる言語の数を増やしていく。</p>	<p>ために、文章の構成や主旨を正しく理解し、要約や要旨などのまとめる活動を授業の中で取り入れ、繰り返し取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話すこと聞くことの向上を目指すために、グループ活動や話し合い活動を通して、他者の考えとの相違点、共通点を考えながら最後まで聞く意識を高めていく。またメモを取りながら聞く活動を多く取り入れていく。また、タブレットを活用して互いの意見を閲覧できるような活動を行い、友達の考えを参考にして更に自分の考えを深められるような学習を目指す。 ・聞き取った内容から文章にする力の向上のために、他者の意見を取り入れたり、自分の書いた意見を見直したりして文章を構成する力をつける必要がある。話し合いの後の振り返りの時間を充実させていく。 	
---	---	--